８月号

No.10

Civis Magazine PERIPLUS

政治と SNS・ネットのこれから

韓国では、既にネットが選挙活動のツールとして中心的な地位を占めていると言えるでしょう。」

そう語るのは、韓国大邱大学の高選圭教授(54)。

[i]今年 4 月 15 日、韓国では国会議員総選挙の投開票が行われ、現在の文在寅大統領派の与党が韓国国会 300 議席中 180 議席を獲得し大勝した。

今回の選挙では新型コロナウィルス下にも関わらず、[ii]66.2%の高い投票率であったがそこには、若者とネットの存在を見てとることができると高教授は指摘する。

「韓国では以前からネットを活用した選挙が行われてきましたが、今回は新型コロナウィルスの影響で従来型の選挙活動が出来なかった代わりに、SNS、特にインターネットやインスタグラムを使った選挙活動が展開されました。例えば、候補者が街を回り、有権者とは触れ合わない形で街が抱える課題を発見し、それに対する解決策を打ち出す動画を YouTube にアップするというものです。若者層はテレビ離れが進み、SNS を利用する時間が多い為、今回の選挙は若者の普段の生活パターンに、組み込まれている YouTube が、候補者と有権者を繋ぐ存在として上手く合致したと考えます。」

主に YouTube を活用した選挙運動は与野党双方で行われたが、新型コロナウィルスへの対応が主な争点になり、現政権の対応が評価されていること、資金力や発信力で与党に利があったこと、そして朴前政権時代に発生したセウォル号事件などへの対応の反省、改革が現在の野党は不十分であると判断されたことが、今回の与党の勝利の要因だと高教授は分析している。

高（ゴ） 選圭（ソンギュ）教授(54 歳)

1966 年生まれ。韓国大邱大学教授。

東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了（情報科学博士）。ソウル特別市電子政府研究所企画部長、韓国中央選挙管理委員会選挙研修院教授を経て 2019 年から現職。韓国政党学会副会長、ソウル特別市民主市民教育委員会委員長。日本と韓国の選挙・政党政治をテクノロジーの変化が与える影響に注目して分析。主要業績に、『フェイクニュース震撼する民主主義』（共著、大学教育出版、2019 年）、『日本・韓国政治制度比較』（共編著、慶応義塾大学出版会、2015 年）、など多数。

政治家娘YouTuberみこちゃんねる

みこ の徒然日記

～立憲民主党、国民民主党の合流について思うこと～

私の父が所属する国民民主党と、立憲民主党の合流話がここ最近特に加熱している。最終的には合流するか否かはわからないが、正直「民主党、昔からよく合流したり解散したりしていない？」と思ってしまう。

自民党であれ共産党であれ、議員の中で考えや思想が様々であっても党内でバラバラになったり、再度合流したりというイメージはない。しかし、民主党の議員はしっかりとした理由、あったとしても周りからは「民主党はふらふらしている」と思われても仕方がないことだと思う。

娘の私が思うくらいだから、よっぽどのことではないだろうか？

確かに選挙のたびに波に乗っている政党に移るという残念な議員がいることは事実だ。

しかし、国民民主党、立憲民主党に所属する多くの議員の方は父も含めしっかりと信念に基づいて行動していると、何人もの議員の方とお話をさせていただいた中で感じた。なので、政党で一括りにするのではなく、政党渡り鳥の議員とそうでない議員をしっかりと見極めることが大切なのではないだろうか？

新党がどうなるかはわからないが私はただただ、あたたかく見守っていきたい。

選挙におけるネットの活用の今後について高教授は、

「韓国では既に有権者の情報入手先として、ネットニュースがテレビや新聞より利用されていますが、今後はネットメディアが主流メディアの地位を獲得することになるでしょう。今回の新型コロナウィルス下での選挙を通じて、選挙におけるネットの活用が一層高まり、多くの有権者がネットを選挙に活用することの利便性を実感しました。なので、今後はネット上での選挙運動がより重要性を増し主流になっていくのではないかと考えています。また今回の選挙では、在外投票有権者の多くが、新型コロナウィルスの影響で現地の投票所が閉鎖されたことなどで投票できないという事態に陥りました。これを受けて、ネット投票導入を求める声が高まっています。今まではハッキングなど安全面が課題とされていましたが、ブロックチェーン技術の発達により安全性が向上したことも踏まえると、今後数年の内に段階的に導入される可能性は高いと思います。」と語る。

しかし、一方で高教授はネットや SNS が特に世代間対立を助長する要因になることへの懸念も指摘した。

高教授によると、ネットや SNS は既存のメディアと異なり、情報の発信者と受信者が双方向にコミュニケーションを取ることができる為、”人と人を固める”作用があるという。そして韓国では、幅広い世代でネット、SNS が利用されているが、世代間で主に利用する媒体が異なっているという。更に韓国の政治的特徴として、若者世代は進歩系・革新系政党やメディアを支持し、上の世代ほど保守系政党やメディアを支持する傾向があるとのことだ。

「ネットや SNS は自分が好みそうな情報が提供されやすいようになっていたり、自分と同じような意見を持つ人同士で集まることが簡単かつ強力にできる環境です。そこに、韓国の世代間の SNS 事情と政治的分断が持ち込まれるとよりその対立が激化する恐れがあります。実際、既にその兆候は見ることができます。選挙期間中はネットでの候補者への誹謗中傷などは選挙管理委員会などが監視・取り締まりを行うことができますが、選挙期間外はそうはいきませんし、そもそも公的権力が政治的な意見の対立に介入することは難しいです。ですが、世代間の対立が進めばより深い傷になる可能性が高くなることは避けられないでしょう。」

最後に高教授に、”政治とは” を伺った。

「私にとって政治とは、自分の生活を決める基本的なルールですね。というのは、私が大学生の頃韓国は独裁政権だったので、読みたい本があっても自由に読むことができませんでした。ですが、国民の政治参加によ

って自由、民主化の道に進みました。それは、”民主主義”といった抽象的なことというよりは、より身近な”生活ルールが合わなかった”というところに民主化運動の動機の根っこがあったと思います。つまり、自分の生活に直結するルール作りが政治の根本で、そこに関わることが大切なのではないでしょうか？今はネットや SNS の発達で世界中の誰とでも簡単に繋がることができ、個人でも大きな発信力を持つことができる時代です。これは日本でも韓国でも変わりません。これは若者が政治に影響力を及ぼすにはとても良い環境だと思います。そしてこの環境はこれから先、どんどん若者にとって良い方向に整備されていくでしょう。今だからこそ、日本の若者の皆さんにもどんどん身近な話題からコミュニケーションをとってもらって、政治に影響力を及ぼしていってもらいたいと思います。」

新型コロナウィルスの終息はまだ先が見えない状況にあり、私たちの日常は変わらざるを得なくなった。感染拡大への懸念や、自身が感染しているかも知れない不安と隣り合わせの中での生活は厳しいものがある。しかし一方で、テレワークなど今まで出来なかったことなどを進める機会だと捉えることができる。

そのような状況の中で、”政治” は私たちの生活に直接影響を与えるものという実感が増え、より身近な存在になったのではないだろうか？

これを機に日本でも選挙期間の延長やネットでの選挙活動の導入について、議論をより進める必要があると思われる。確かに課題はあるだろうが、実現したならば ”政治” をより身近に感じさせる有効な道具の 1 つとなるに違いない。それまでに、私たちはその道具を使いこなせるように準備をし、どのように使うのかを考えておく必要があるのではないだろうか？

---

[i] 「韓国総選挙で与党が圧勝 過半数確保＝文政権に追い風」聯合ニュース 2020.416 配信

[ii] 同上

3